

こんなとき
どうしたらいい？

Q2

おしっこの回数が多く、尿がたまってくると膀胱のあたりが痛みます。これまでもいろんな先生に膀胱炎、過活動膀胱といわれ投薬を受けましたが、治りません。

A おしっこの回数が多くなることを頻尿といい、膀胱炎や過活動膀胱などいろいろな膀胱の病気の症状のひとつです。過活動膀胱というのはおしっこがこらえられないといった尿意切迫感を主に、頻尿、夜間頻尿がおこる病気で、時にはおしっこがもれてしまうこともあります。この病気は尿を押し出す排尿筋の異常で起こり、最近では有効なお薬がたくさん開発されています。

過活動膀胱と同じような症状がおこる間質性膀胱炎といって膀胱の知覚過敏症の存在が広く認知されるようになってきました。原因はまだ解明し尽くされてはいませんが、頻尿、尿意切迫感、とくに膀胱充満時の痛みが特徴で排尿により消失します。この診断には水圧拡張が有効とされ、特徴的な粘膜からの出血がみられます。この方法は同時に治療効果もありますので、泌尿器科専門医での相談が良いと思われます。また膀胱癌においても同じような症状を引き起こすことがあり、多くは血尿を伴い、膀胱の超音波検査により診断できますが、上皮内癌といって腫瘍を作らず、粘膜を這うように広がる特殊な癌も稀ではありません。この際には尿細胞診が有用で、専門医による膀胱鏡で診断が確定されます。この検査も最近ではファイバーで行われ痛みは極めて軽減されています。

このように頻尿といった症状の中にはいろいろな病気が隠れていることがありますので、症状が直りにくいときには専門医での診察が重要と考えられます。

PSAの正常値は年とともに高くなります。

尿路・性器の病気

高齢になると排尿に関する症状があらわれやすく、男性では前立腺肥大症が代表的です。近年PSA（前立腺抗原）の検診が盛んに行われるようになっていますが、必ずしも前立腺癌のみに特異的な検査法ではなく、その解釈には注意が必要です。

一方、頻尿などの症状は過活動膀胱や前立腺肥大症に伴いやすい症状ですが、膀胱癌や間質性膀胱炎などに伴うこともありますので注意しなければなりません。

PSAがちょっとだけ高い！ おしっこが近い！

泌尿器疾患のQ & A

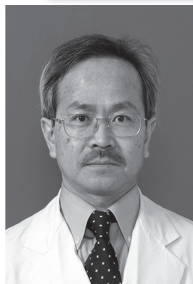
Q1

58歳男、職場の検診でPSAの数値が4.2と少し高いといわれました。おしっこが出にくいことも血が混じることもあります。専門医にかかる必要はありますか。

A PSAは前立腺癌の腫瘍マーカーですが、数値が高いからといって必ず前立腺癌とは断定できません。PSAそのものは前立腺細胞から作られ、癌細胞だけが作る物質ではありませんので、細菌感染や前立腺肥大症でも高く測定されることもあります。昨年9月厚労省の研究班からこのPSAによる検診が集団検診には適さないとの報道がなされておりますが、世界的には前立腺癌による死亡率減少が認知され、米国においては年1回の検診が勧められています。PSAの正常値は4.0未満といわれますが、年とともに高くなります。

さてこの方の場合、50歳代で4.2はかなり高い値といわざるを得ませんので専門医による精密検査、とくに前立腺生検をすべきものと考えます。生検は外来においてもできる15分程度の簡単な検査ですが、出血や発熱を稀に引き起こすこともあります。最近では合併症の少なく、確実に診断できるように腰椎麻酔で複数箇所生検も推奨されております。また癌の検出に有用と脚光を浴びているこれまでのPET-CTもこの前立腺癌には不向きと考えられますが、MRI検査ではより効率的に異常をとらえられるようになってきています。

今月のドクター



岐阜市民病院 泌尿器科部長

竹内 敏視氏

(たけうち としみ)

昭和55年岐阜大学医学部卒業。同年岐阜大学医学部泌尿器科入局。大垣市民病院、岐阜大学付属病院、県立岐阜病院を経て平成17年より岐阜市民病院勤務。20年より現職。日本泌尿器科学会評議員、日本Endourology・ESWL学会評議員。